

屋久島から得られたテンジクダイ科魚類 アマミイシモチ *Apogon amboinensis*

吉田 朋弘*・本村 浩之**

Tomohiro YOSHIDA and Hiroyuki MOTOMURA: Northernmost records of *Apogon amboinensis*
(Teleostei, Perciformes, Apogonidae) from Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan

はじめに

テンジクダイ科テンジクダイ属 (Apogonidae, *Apogon*) のアマミイシモチ *Apogon amboinensis* BLEEKER, 1853 は、インドネシアのモルッカ諸島アンボン島から採集された 3 標本に基づき新種として記載された。その後、JORDAN & TANAKA (1927) は沖縄県石垣島産の標本に基づき、本種を日本初記録として報告した (林・岸本, 1983)。続いて、SCHMIDT (1930) は本種が奄美大島にも分布することを確認したが、この時点で本種に対して和名が与えられていなかった。岡田 (1938) は *A. amboinensis* に対し、和名アマミイシモチを提唱し、本種の日本における分布を石垣島と奄美大島とした (松原, 1963)。現在、本種は奄美大島以南に広く分布することが知られている (益田ほか, 1975; 林, 1991, 2000)。

2009 年 7 月 26 日に鹿児島県熊毛郡屋久島町安房川において、アマミイシモチと同定される標本が 2 個体採集

された。この標本はアマミイシモチの分布の北限更新となるため、ここに報告する。

計数・計測は FRASER (2005) に従った。計測は顕微鏡下でデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に所蔵されている。生鮮時 (固定前) の標本は撮影され、画像は KAUM 魚類画像データベースに登録されている。色彩の表記は財団法人日本色彩研究所 (2001) の系統色に準拠した。

Apogon amboinensis BLEEKER, 1853

アマミイシモチ

(図 1)

標本: 2 個体, 標準体長 49.0 – 53.5 mm — KAUM – I. 21588, オス, 1 個体, 標準体長 53.5 mm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町安房川河口 (安房大橋から上流へ約 400 m,



図 1 鹿児島県屋久島で採集されたアマミイシモチ *Apogon amboinensis* の生鮮標本 (KAUM – I. 21589, 標準体長 49.0 mm)

Fig. 1. Fresh specimen of *Apogon amboinensis*. KAUM – I. 21589, 49.0 mm standard length, Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan

* 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島大学水産学部) E-mail: k5299534@kadai.jp

** 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館 E-mail: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

33° 18' 55" N, 130° 39' 07" E), タモ網, 水深 1.5 m, 2009 年 7 月 26 日, 吉田朋弘。KAUM-I. 21589, オス, 1 個体, 標準体長 49.0 mm, データは KAUM-I. 21588 と同じ。

記載: 背鰭条数 VI-I, 9; 臀鰭条数 II, 8; 胸鰭条数 14; 腹鰭条数 I, 5; 側線有孔鱗数 24; 側線上方横列鱗数 2; 側線下方横列鱗数 6; 背鰭前方鱗列数 7; 尾柄周鱗数 12; 鰓耙数 4 + 5 + 17 - 18 = 21 - 23; 櫛歯状に発達した鰓耙数 4 + 15 - 16 = 19 - 20。

体各部測定値の標準体長に対する割合 (%) : 体高 37.4 - 38.4; 頭長 43.4 - 43.9; 眼径 12.0 - 12.3; 吻長 10.4 - 11.2; 両眼間隔 (骨質部で測定) 8.2 - 8.6; 上顎長 18.6 - 18.9; 尾柄長 21.1 - 22.7; 尾柄高 14.2 - 14.9; 第 1 背鰭第 1 棘長 6.4 - 6.9; 第 1 背鰭第 2 棘長 16.4 - 17.1; 第 1 背鰭第 3 棘長 17.6 - 18.2; 第 1 背鰭第 4 棘長 15.7 - 15.9; 第 2 背鰭棘長 14.6 - 14.7; 臀鰭第 1 棘長 2.4 - 2.9; 臀鰭第 2 棘長 11.0 - 12.4; 胸鰭長 22.8 - 23.9; 腹鰭長 18.9 - 19.6。

体は長楕円形で側扁する。第 1 背鰭起部で最も体高が高い。吻は突出する。口はやや大きく, 口裂はわずかに斜位。上顎後端は瞳孔中央下に達する。第 1 背鰭第 2 - 4 棘, および第 2 背鰭棘は眼径より長い。前鰓蓋骨下方後縁は鋸歯状。眼隔域はやや広く, ほとんど平坦である。背鰭起部は第 3 側線鱗の直上にある。臀鰭起部は第 2 背鰭起部下にある。胸鰭起部は第 1 背鰭起部下に位置し, その先端は臀鰭起部上を越える。腹鰭起部は胸鰭起部よりもわずかに前方に位置し, その先端は肛門のやや後方に達する。尾鰭は二分する。側線鱗列は完全で, 鰓孔上端直上部から尾鰭基部まで連続する。

生鮮時の色彩: 体側上方は黒色がかかった枯草色, 下方は光沢のある銀白色。頭部には黒色素胞が密に分布する。体の背縁と尾柄の腹縁は黒色素胞がやや密に分布する。尾柄後端中央に黒色斑がある。吻端から眼を通り鰓蓋後縁付近まで 1 本の明瞭な黒色線がある。鰓蓋後縁から体側中央を通り黒色斑まで達する光沢のあるうす水色線がある。鰓蓋後縁から体側中央を通り黒色斑まで黒色素胞が分布する。鰓孔上端直上部から尾鰭基部まで連続する側線があり, 側線中央まで黒色である。背鰭はあさい黄色であるが, 第 1 背鰭第 1 棘の鰭膜基部から第 1 背鰭第 3 棘の鰭膜先端にかけて黒色を帯びる。第 2 背鰭は基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。臀鰭は透明であるが, 基底付近の鰭膜に黒色素胞が分布する。胸鰭と腹鰭は透明。尾鰭は透明で, 後縁に黒色素胞が分布する。

固定標本の色彩: 体全体が淡黄色。尾柄後端中央の黒色斑と吻端から眼を通り鰓蓋後縁付近まで達する 1 本の黒

色線は明瞭に残る。各鰭の黒色素胞も明瞭に残る。

分布: 本種は台湾とパラオ諸島 (林, 1988, 2000), フィリピン (岡田, 1938; 松原, 1963), シンガポールからバブアニューギニア (ALLEN *et al.*, 2005) のオーストラリアを除く西部太平洋域に広く分布する。日本では沖縄県与那国島 (SAKAI *et al.*, 2001), 西表島 (林・岸本, 1983; 吉郷ほか, 2001), 石垣島 (SAKAI *et al.*, 2001), 宮古島 (吉郷ほか, 2005), 久米島 (吉郷・中村, 2003; 吉郷, 2007), 沖縄島 (吉郷ほか, 2005), 鹿児島県奄美大島 (SCHMIDT, 1930; 岡田, 1938; 松原, 1963; 吉郷ほか, 2001), 屋久島 (本報告) から報告されている。

備考: 本標本は, 第 1 背鰭前半部が黒いこと, 尾柄中央に瞳孔大の黒色斑をもつこと, 吻端から眼を通り鰓蓋後縁付近まで達する 1 本の黒色線があること, 側線に沿って黒色線があることからアマミイシモチと同定された。

採集された 2 個体は口内保育中であり, 卵塊は 2 cm ほどでオレンジ色を呈していた。本種の 1 回の産卵数は 3000 粒以上と推定されており (松崎, 2002), KAUM-I. 21588 の口に含まれていた卵は 2923 粒であった。しかし本標本の採集時に口腔内の卵塊が吐き出され, 卵がいくらか飛散したため, 実際の産卵数は 3000 粒以上だと考えられ, 松崎 (2002) の見解を支持する。

口内保育中の個体が採集されたことから, 本種は屋久島において再生産していることが示唆された。

本標本は, 流れがゆるやかな汽水域の落葉や泥が堆積する環境から採集された。これは本種のこれまでに報告されている生息環境の状態とよく一致した。アマミイシモチは, 屋久島で採集された本標本 2 個体によって, 従来の報告より約 220 km 北限を更新したことになる。

比較標本: アマミイシモチ, KAUM-I. 2618, 1 個体, 標準体長 54.4 mm, 鹿児島県奄美市住用町摺勝内海湾内 (28° 17' 45" N, 129° 26' 55" E), タモ網, 水深 1.0 m, 1991 年 8 月 5 日。

謝 辞

標本の作製・登録作業を手伝ってくださった鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの伊東正英氏, 高山真由美女史, 原口百合子女史に厚くお礼を申し上げる。本原稿に対し適切な助言を下された鹿児島大学大学院水産学研究科魚類分類学研究室の荻原豪太氏, 松沼瑞樹氏, 目黒昌利氏ならびに山下真弘氏に感謝する。本研究の一部は文部科学省科学研究費補助金基盤研究 A (課題番号 19208019) によって行われた。

引用文献

- ALLEN, G., R. STEENE, P. HUMANN & N., DELOACH 2005 : Reef fish identification. Tropical Pacific. 457 pp. New World Publications, Inc., Jacksonville.
- FRASER, T. H. 2005 : A review of the species in the *Apogon fasciatus* group with a description of a new species of cardinalfish from the Indo-West Pacific (Perciformes: Apogonidae). *Zootaxa*, **924**, 1-30.
- 林 公義. 1988 : テンジクダイ科. *in* 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑, 第2版. 和文版139-147, pls.129-133. 東海大学出版会, 東京.
- . 1991 : テンジクダイ科. *in* 川那部浩哉・水野信彦編. 日本の淡水魚, 第3刷. 512, 517, 699. 山と溪谷社, 東京.
- . 2000 : テンジクダイ科. *in* 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定, 第2版. 750-779, 1551-1553. 東海大学出版会, 東京.
- . 岸本浩和. 1983 : 西表島(琉球列島)産魚類 III. テンジクダイ科(テンジクダイ亜科). 横須賀市博物館研究報告, **31**, 15-46, pls. 2-8.
- JORDAN, D. S. & S. TANAKA. 1927 : The fresh water fishes of the Riukiu Islands, Japan. *Ann. Carnegie Mus.*, **17** (2), 259-278, pls. 22-23.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975 : 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 初版. 379pp. 東海大学出版会, 東京.
- 松崎浩二. 2002 : アマミイシモチの繁殖. *アクアマリンふくしまニュース*, **4** (1), 1.
- 松原喜代松. 1963 : 魚類の形態と検索 I. 第2版. xi + 789 pp. 石崎書店, 東京.
- 岡田彌一郎. 1938 : 日本脊椎動物目録. iv + 412 pp. 丸善, 東京.
- SAKAI, H., M. SATO & M. NAKAMURA. 2001 : Annotated checklist of the fishes collected from the rivers in the Ryukyu Archipelago. *Bull. Natn. Sci. Mus. Ser. A (Zool.)*, **27** (2), 81-139.
- SCHMIDT, P. J. 1930 : Fishes of the Riukiu Islands. *Trans. Pacific Com. Acad. of Sci. USSR*, **1**, 19-156, pls. 1-6.
- 吉郷英範. 2007 : 琉球列島久米島の陸水性魚類. 比和科学博物館研究報告, (48), 25-51, pls. 1-4.
- . 市川真幸・中村慎吾. 2005 : 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (IV). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (5), 1-51, pl. 1.
- . 内藤順一・中村慎吾. 2001 : 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (2), 119-168.
- . 中村慎吾. 2003 : 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). 比和町立自然科学博物館標本資料報告, (4), 31-75, pl. 1.
- 財団法人日本色彩研究所(監). 2001 : 改訂版色名小事典, 改訂版第17刷. 92 pp. 日本色研事業株式会社, 東京.